



登小だより

神無月号

登立小HP
文責 校長

一人ひとりの「歩み」に

寄り添う教育をめざして

震災から二か月が経ちました。災害からの復興の歩みの中にあつて、先日新聞に「全体の復興率といった数字だけでなく、一世帯の『まだ水が出ない』『手続きに行けない』といった切実な声に耳を傾けることが大切」と記されていました。この視点は、日々の学校教育においてもまったく同じことが言えます。学校では、テストの平均点や授業の進捗といった「全体の数字」に目を奪われがちです。しかし、本当に大切なのは、クラスの中にいる子供一人ひとりの困り感（学習内容が分からない・質問できずに悩んでいる）である「個人の現実」にどれだけ気づけるかだと考えます。本校では、子供たち一人ひとりに寄り添う教育を行うため、次の三つの視点を大切に組み込んでまいります。

一、全体（平均）と個人（つまりさ）を分けて捉える

平均点や進捗にとらわれず、どこでつまづいているのか何に悩んでいるのかという一人ひとりの声やSOSを丁寧に見つけていきます。

二、充実した教育環境を「すべての手元」へ

ICT機器や様々な学習支援の環境を整えるだけでなく、支援が本当に必要な子供の手元にまでしっかりと行き届く工夫を重ねます。

三、「自分主役」の学びと成長を育む

「友だちではできているのに」と他者と比較して焦るのではなく、「理解のペースや悩みどころは人それぞれ違って当たり前」と捉え直し、自分のペースで安心して成長できる土壌を育みます。

「みんな違って、みんな良い」。子供たちが周りとは違うことなく、自分自身の足で一歩ずつ前へ進んでいけるよう、教職員一丸となって一人ひとりの「手元」と「心」に届く支援を続けてまいります。今後とも、子どもたちの健やかな成長とともに見守り、支えていただければ幸いです。よう、よろしくお願ひ申し上げます。

あいさつ勝負

毎朝、校門や廊下で聞こえる「おはようございます！」「こんにちわ！」の声。元気いっぱいのあいさつを聞くと、気持ちのいい一日のスタートを切ることができます。あいさつには、心を温かくする3つの力（効果）があります。「自分の心を「元気スイッチ」を入れる力」「相手に、あなたを大切に思っていますと伝える力」「人と人との距離をキューッと縮める力」です。あいさつの語源をたどると、禅の言葉である「一押し一押し（押し合い引き合うこと）」から来ていると言われています。つまり、あいさつはお互いの存在を認め合い、心を交わす言葉のコミュニケーションです。現在、学校では「あいさつ勝負」と題して、あいさつの様態の習慣化を図る取組です。9月の「あいさつは、されたら負け」に始まり、10月は「あいさつは、目をそらしたら負け」につなげています。のびっ子の中には進んであいさつが学校に、そして、地域に広がるように活動を進めています。



防災会議

を開催しました。地域の皆さまとともにのびっ子の命を守る取組です。今回は11月の実施する地域との合同訓練にむけての話し合いを行いました。昨年に引き続き、助成金を活用し、のびっ子たちが役割をもち、共同で防災学習活動が盛り込まれる予定です。これからの学校と地域との連携を深め、防災意識を高めてまいります。



【熟議の様子】



自然と仲間と集団宿泊教室

5年生が1泊2日で自然体験を伴う集団宿泊に参加しました。仲間と2日間生活を共にすることで、協力・協同といった学級の意識を高め、絆を再認識する目的で実施しました。宿舎内での規律ある行動、計画に沿った活動など、学校生活の活用場面が多く設定されていました。クタクタになった2日間だったようですが、心で感じ、得た仲間意識、そして、それを得ることができた自分への大きな誇りを抱けた5年生であったように感じます。

出発前のチクサクコール



ペーロン漕艇活動



野外活動(オリエンテーリング)



天草五橋開通六十周年

（離島から未来へつなぐ命綱）昭和四十一年、天草五橋が開通し、それまで船でしか渡れなかった天草が九州本土と陸続きになりました。今年、五橋は大きな節目となる開通六十周年を迎えます。かつては出稼ぎや進学で島を離れると、簡単には家族と会えないのが当たり前の時代だったそうです。しかし、橋がかかったことで人や物の行き来が一気に活発になりました。かつて有料道路だった五橋は、予想をはるかに超える利用により、わずか約九年で建設費用を返し終えて無料化されるという、全国的にも珍しい歴史を持つ橋です。橋の開通は、天草の暮らしや産業、人々の価値観まで大きく変えた「現代化の象徴」でした。

それから六十年。人口減少や観光の移り変わりなど、天草を取り巻く環境は変化しています。それでも、天草五橋は今なお私たちの毎日の通学や買い物、病院への移動、そして物流を支える「島の命綱」であることに変わりはありません。近年に完成した新第一号橋（天城橋）とともに、私たちの暮らしを支え、足元からしっかりと支えてくれています。地域の歴史を振り返り郷土の発展を支えてきたインフラのありがたみや、これからの天草の未来について、ぜひご家庭でも話題にしていただけたらいいかなと思います。

画像天草四郎観光協会HPより

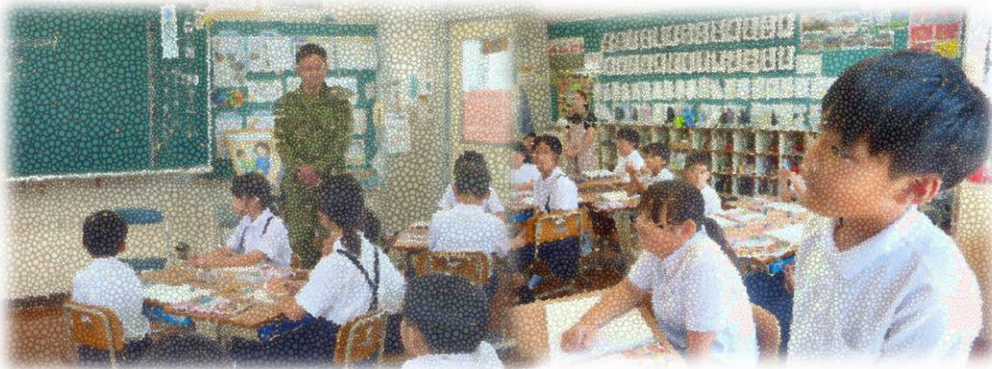
のびっ子の輝き

Noboritate.es
School life scene



大矢野中学校より6名の生徒さんが来校しました。**職場体験活動**の場として本校を選んだ生徒さんたちです。2日間、教師の仕事、学校の教育活動について体験しました。活動では、すべての学級に入り、のびっ子たちと交流しました。キャリアアップにつながった事を願います。6人は本校の卒業生、のびっ子の先輩たちです。

4年生の社会科学習「**災害に強いまちづくり**」の一コマです。自衛隊熊本地方協力本部のご協力により、災害支援活動の実際について自衛官の方にご講話をいただきました。被災地での活動の様子をはじめ、自衛隊のお仕事についてもお話いただきました。のびっ子たちも興味津々で、たくさんの質問がありました。「苦しい中でも、人のためになれることの喜びは自分を支えている」という言葉はみんなの心に深く残るものでした。お忙しい中に、ご来校いただき、心より感謝申し上げます。



のびっこ自由参観がありました。6年生は慈恵病院より助産師さんに来校いただき、「**命の大切さを育む授業**」がありました。助産師の仕事についての講話や、赤ちゃんへの接し方、妊婦さんの体験活動を通して、命に触れる学びを深めました。興味深く取り組むのびっ子たちの心の力の高まりが期待されます。保護者の方も参観ありがとうございました。

2学期から探究の時間(総合的な学習の時間)がスタートしました。その1時間目には、ゲストティーチャーをお招きし、3～5年生ののびっ子たちがグループに分かれて「探究の種探し活動」を行いました。料理を作ったり、外で昆虫を捕まえたり、理科の実験を行ったりと、課題づくりのための体験活動です。地域の方の力をお借りしながら、疑問を焦点化していったのびっ子たちでした。



「**未来の上天草市をつくるのは、みなさんです！**」のスローガンのもと、上天草高校の生徒さんと交流活動がスタートしました。6年生が総合的な学習の時間を通じて、高校生と学習活動を行います。「福祉」「防災」「産業」「観光」「教育」の5つのカテゴリーから9つのチームで探求的な学びを進めます。ゴールは「未来の上天草を創造する」です。高校生がのびっ子の学びの伴走役として力を発揮してくれます。日ごろ接することのない人たちとの学習は、新たな視点を与えてくれました。上天草高校のみなさん、これからも、のびっ子をよろしくお願いします。

国際交流に一躍

上天草市は、台湾の新北市瑞芳区と「友好交流協定」を締結しています。その一環として、子供たちの国際理解の深化や異文化理解の促進を目的として、台湾の学校との交流事業が進められています。夏休みに市内の子供たちの代表が現地を訪問しました。本校からも6年生の田端 希さんが訪問団の一員として参加しました。



交流校 瑞濱小の
校長先生と



かがやき

第45回熊日学童書道展が開催され、萩野天柊さん(5年)の作品が特選を受賞しました。おめでとうございます。作品は県立美術館分館に展示され、多くの方々がご覧になりました。

台湾で学んだこと

6年 田端 希

私は、8月19日から21日にかけて台湾に行ってきました。そこで学んだことが2つあります。1つ目は、英語でコミュニケーションを取ることです。現地の方とは英語を通して会話をすることが多くありました。私も英語を少し話せるので、「行ったことのある国」や「好きな食べ物」を尋ね合うことにチャレンジしました。そのおかげで、会話する力を伸ばすことができました。2つ目は、台湾の歴史や文化についてです。台湾のさまざまな学校を訪問した際、現地の方々が台湾の歴史をたくさん教えてくれました。日本の植民地だった頃の話や、先住民の衣装を着てダンスを踊ったり、伝統的な太鼓の体験をしたりと、多くの貴重な経験ができて嬉しかったです。また、食文化や食事スタイルが日本と大きく違うことにも気づきました。日本では醤油や味噌などの味付けが多いですが、台湾では香辛料や薬味を使った料理が多く見られました。日本では最初からお皿に取り分けられていることも多いのに対し、台湾では回転テーブルにたくさんの料理を載せ、回しながら好きなものを取っていくスタイルでした。ほかにも、日本と違って華やかな色使いのものがたくさんありました。華やかな建物や洋服、鮮やかな街並みが印象的でした。特に九份(キウフン)では、ジブリ映画『千と千尋の神隠し』のような世界観の建物や通りが広がっていて、とても綺麗で感動しました。台湾に行って日本との違いを感じ、驚いたり少し困ったりしたこともありましたが、友達もできてとても楽しく、素晴らしい経験になりました。これから、台湾で体験した交流の思い出をたくさんの友達に伝えていきたいです。そして、台湾でできた友達に会うために、またぜひ台湾へ行きたいと思っています。